

## 平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	NPO法人等が実施する支援講座等の共同研究及び当該講座と連携した職業教育支援講座等の研究開発		
法人名	学校法人情報文化学園		
学校名	アーツカレッジヨコハマ		
代表者	理事長 中村 孝雄	担当者 連絡先	有賀 悟 TEL 045-324-0011

### 1. 事業の概要

ニートに対する職業教育を、より有効にするため、NPO法人等が実施している支援内容と、強固に連携した職業教育を開発する必要がある。そのため、NPO法人等が実施する支援内容と、専修学校が実施する支援内容を共同研究することにより、結果として、分断されない、連結した支援内容となる職業教育講座の研究開発を実施した。

まず、NPO法人等が実施している各種の支援事業のうち、ビジネススキルの向上を図るため、パソコン基礎講座を共同研究開発し、それを受けた講座として、専修学校にて実施する「仕事につながるPCスキルアップ講座」の共同研究開発を行い、それぞれ導入講座及び実証講座を実施した。

次に、同じくNPO法人等が実施している支援事業のうち、ヒューマンスキル(マインド)の向上を目的とした「仕事につながるコミュニケーション講座」を共同研究開発を行い、実証授業を実施した。以下、具体的に述べる。

本講座の目的である、連結した講座を実施できた。ビジネススキルの向上を図るため、NPO法人が運営しているヤングジョブスクエアよこはまにおいて、PC導入編ともいべき「仕事につながるPCベーシック講座」を実施した。当該講座に連結した講座として、アーツカレッジヨコハマにおいて、PC基礎編ともいべき「仕事につながるPCスキルアップ講座」を実施し、検定合格レベルを目指した。後者の講座においては、社会におけるコミュニケーションの重要性をも内容に取り入れ、PC技術に偏らないよう心がけた。結果は、日本商工会議所主催PC検定文書作成3級7名、同データ活用Basic3名の合格者を輩出できた。文書作成3級については50%の合格率となった。

もうひとつのパソコンに偏らないコミュニケーション能力の向上を図るべく、アーツカレッジヨコハマにて「仕事につながるコミュニケーション講座」を実施した。5名の参加で、1名を除き社会性が乏しく、講座運営に支障をきたすのではないかと、危惧したほどであった。全10回、毎回新しい刺激を提供して、受講者の琴線に触れるように工夫した内容を提供した。本講座は、一切PC等の機器には触れない、アナログでの講義内容とし、先生と生徒ではなく、人間の触れ合い、人間関係を重視したものとした。初回の自己紹介から、最終回の個人発表会での変わりようは、本人はもちろん、講義担当をはじめかかわった委員全員が感動した。これについては余談がある。後日、受講者がお世話になっている「よこはま若者サポートステーション」の職員から、参加受講者が、今までにない積極的な行動に驚いた、とのことである。

### 2. 事業の評価に関する項目

#### ①目的・重点事項の達成状況

達成度としては8割と評価する。本事業は、就職支援施設を運営するNPO法人と連結した職業教育支援講座を共同研究開発、実施が重点事項である。以下講座別に説明する。

#### 1. 仕事につながるPCベーシック講座(PC初心者対象)

期間:平成19年9月～11月全23回

場所:ヤングジョブスクエアよこはま

属性:上記利用者

受講者数:54名

達成状況:PC操作等は良好ではあるが、コミュニケーション力の欠乏を感じる

## 2. 仕事につながるPCスキルアップ講座(上記1受講生及び経験者)

期間:平成19年12月3日～12月21日全15回

場所:アーツカレッジヨコハマ

属性:ヤングジョブスクエアよこはま、ジョブマッチングよこはま

よこはま若者サポートステーションの利用者

受講者数:14名

達成状況:授業終了後、実習室を開放し、課題に取り組んでいる受講生が多かった。本講座はPC検定の受験を可能としたレベルを設定し、結果延べ10名の合格者を輩出できた

## 3. 仕事につながるコミュニケーション講座

期間:平成20年1月28日～2月12日全10回

場所:アーツカレッジヨコハマ

属性:ヤングジョブスクエアよこはま、ジョブマッチングよこはま

よこはま若者サポートステーションの利用者

受講者数:5名

達成状況:コミュニケーションがとれない、苦手といった受講生であった。何とかしなければという意欲は感じ、10回の講座の前と後では、かなりの変化が見られた。ただし、今後の自助努力が必要であると感じた。

### ②事業により得られた成果

15日間45時限の短期間に、パソコン初学者が、日本商工会議所主催のパソコン検定文書作成Basicの合格を達せ得る講座を開発 あわせて、データ活用3級の合格の可能とする講座を開発。

開発テキスト:OS活用1・2、インターネットと電子メールのマナー、インターネット活用1・2

10日間30時限の短期間、コミュニケーションが改善され、人間関係がよりよくなる講座を開発。以下にて説明する。

1. アイスブレイクによる相互理解 2. 自己紹介、他己紹介による相互理解 3. 心理学的側面より自己分析(産業カウンセラー担当)、自己理解、他者理解 4. 企業人ミーティング 5. 企業人ヒアリング 6. ビジネスマナー 7. 研究発表

開発テキスト:ビジネスマナー、その他レジュメ多数

### ③今後の活用

開発テキストは、当校はもちろん、他の専修学校専門課程の授業さらに再就職支援講座にて利用することが出来る。

また、コミュニケーション講座の教育プログラムは、ニート等若年無業者に対するヒューマンスキル(ヒューマンマインド)の育成に効果があると判断する。これも、専修学校はもちろん、連携したNPO法人等の職業教育の支援として活用していきたい。

### ④次年度以降における課題・展開

今後の課題は、短期間でのニート育成の困難をどのように乗り越えるかである。支援講座としては、短期間で有効な講座は開発可能ではあるが、講座終了後、即座に就業可能なまでには難しい。また、専修学校が取り組む場合、専門教育が主たる授業であるので、その点は問題はない。しかし、専門教育以外の人格、人間性、社会性といったものを、短期間で、就業可能レベルまでもっていくのは難しい。したがって、NPO法人等との連携が、継続的・恒常的に行われれば、就業できるニートを育成することが可能と思われる。

## 3. 事業の実施に関する項目

### ①ニーズ調査等

ニートのニーズについては、連絡協議会の第2、3回において、NPO法人等の委員から直接情報・状況入手し、講座の開発につなげた。第2回の連絡協議会では、基礎講座及びスキルアップ講座の検討ならびに本講座説明会の検討を行った。第3回連絡協議会では、第2回に続いて講座の検討及び講座名や実施時期期間の検討、広報活動といった細部にわたる検討を行った。

### ②カリキュラムの開発

ニートに対する職業教育を、より有効にするため、NPO法人等が実施している支援内容と、強固に連携した職業教育を開発する必要がある。そのため、NPO法人等が実施する支援内容と、専修学校が実施する支援内容を共同研究し、結果として、分断されない、連結した支援内容となる職業教育講座の研究開発を行う。

平成18年度実施した委託事業では、専修学校が保有する職業教育のノウハウに、NPO法人等の助言を受けて講座を開発、実施した。

今回、さらなる有効性をもとめ、まず、第1段階としてNPO法人等が実施している支援内容について、実証講座の実施も視野に入れて研究開発した。その目的は、ニートからの脱皮はもちろん、職業教育を考慮に入れた支援内容の共同研究・開発を行うことである。それが、「仕事につながるPCベーシック講座」である。

さらに、第2段階として、専修学校が、就労観の育成を含めた職業教育を実施することで、有効性を高めることができる講座とした。それが、「仕事につながるPCスキルアップ講座」である。

また、ニートは多様化の様相を呈している。その多様化に対応できる職業教育の研究開発も実施した。例えば、ビジネススキルは就業に耐えられるが、コミュニケーションが苦手なニート、また、まったく就労経験がないニート、などに対する有効な職業教育を研究開発し、この場合は、単発講座を組み合わせることも考慮に入れ開発したのが、「仕事につながるコミュニケーション講座」である。

最後に、ニート個人の特性を生かす取り組みも研究開発した。ニートは、個性や人間関係において、少なからず、悩みを持っている。この点を無視した職業教育は、有効ではないと考える。このため、心理学的側面からの育成を考慮した職業教育についても共同研究開発を行い、交流分析を利用することとした。

### ③実証講座

#### 1. 仕事につながるPCベーシック講座(PC初心者対象)

期間:平成19年9月～11月全23回

場所:ヤングジョブスクエアよこはま

属性:上記利用者

受講者数:54名

受講者の反応:PC操作等は良好ではあるが、コミュニケーション力の欠乏を感じる

#### 2. 仕事につながるPCスキルアップ講座(上記1受講生及び経験者)

期間:平成19年12月3日～12月21日全15回

場所:アーツカレッジヨコハマ

属性:ヤングジョブスクエアよこはま、ジョブマッチングよこはま

よこはま若者サポートステーションの利用者

受講者数:14名

受講者の反応:授業終了後、実習室を開放し、課題に取り組んでいる受講生が多かった。本講座はPC検定の受検を可能としたレベルを設定し、結果延べ10名の合格者を輩出できた

#### 3. 仕事につながるコミュニケーション講座

期間:平成20年1月28日～2月12日全10回

場所:アーツカレッジヨコハマ

属性:ヤングジョブスクエアよこはま、ジョブマッチングよこはま

よこはま若者サポートステーションの利用者

受講者数:5名

受講者の反応:コミュニケーションがとれない、苦手といった受講生であった。何とかしなければという意欲は感じ、10回の講座の前と後では、かなりの変化が見られた。ただし、今後の自助努力が必要であるとも感じた。

### ④その他

NPO法人等との強固な連携により、就職支援施設と専修学校において、連結した講座が可能であったこと。また、講師の協力により専修学校の領域を超えたコミュニケーション力の育成講座を実施できたこと、この二点が本事業の特色といえる。PC系の講座では、受講者に自信を付けさせるため、資格取得を打ち出し、達成するためには過程が大切であることを学ばせた。また、コミュニケーション講座では、人前で自己を表現すること、自己理解と他者理解が大切であることを主として学ばせた。そのために、実習講義(能動的な授業形態)のような時間を多く割いた。